

温故 1

大地の歩み半世紀

協会の会員数・事業費の変遷

当協会は昭和34年に会員数20社で発足、その後順調に発展し、10年後には55社、20年後に62社、30年後に64社、40年後に101社を超えましたが、平成14年より減少傾向が続き平成21年4月には53社まで減少しました。

平成14年以降の会員数の減少傾向は、近年の公共事業の削減、地質調査事業量の建設投資額に占める割合の減少、一般競争入札の増加による価格競争の激化などによる会員企業の受注額の減少化による疲弊を背景とするものと考えられます。企業間の競争は、市場原理に則ったものでありますが、過度の価格競争は品質確保の障害となることや人件費の抑制など業界の健全な発展を妨げるものであります。

国土交通省などの発注機関では、本格的に低価格対策への取り組みを実施され、プロポーザル方式や総合評価方式の導入が進行しています。私たち地質調査業協会も、過度の価格競争から健全な技術競争に移行し、互いに技術力向上に切磋琢磨する時代が到来したと言えます。

今後は、環境、防災、地質リスク、提案型事業など新しい市場開拓に励み、安全安心な国土形成の一翼を担う業界としての自負心をもって、地質調査業界の健全な発展に尽力する所存であります。

(K.T 記)



宮城豊彦教授による平成21年新春セミナー



平成20年度東北地方整備局との意見交換会



平成20年定期総会・協会功労者(秋山氏)に感謝状贈呈

